

# 山岳 おおさか

<http://sangaku-osaka.com/>

No.216

平成30年春号 2018年4月1日発行 | 〒537-0014 大阪市東成区大今里西2-5-12 TEL 06-6973-3675 FAX 06-7504-4214 yamaosaka@hera.eonet.ne.jp

## New 道迷い遭難防止に役立つ…「ナビゲーション力(地形と地図を読む力)」を高めよう!

地図やコンパスも、車のナビのようにはいきませんね。「おしゃべりに夢中で! わかりやすい道なのに?」と、道迷い遭難は気軽に歩ける里山など低山に多いのが特徴です。そこで、長年道迷い遭難の解明に取り組んでいる青山千彰(あおやまちはし)先生指導監修の新シリーズをお届けします。医療と同じく、道迷いも早期発見・早期対応が遭難防止のポイント! 「ナビゲーション力」を少しずつ身につけていきましょう。

## 地図に登山道が記入されていないが道がある ケースによって起こる、 「現在地の思いこみ」

初回のテーマ

読図初中級者4人に「大阪府民の森ほしだ園地(交野市)」に広がるハイキング道を道標に一切頼らず歩いてもらい、チェックポイントの場所がどこかを地図※に記入していただきました。もちろん、予めどこを歩くかは内緒です。さて、どんな課題が浮かんできたのでしょうか。

### Checkpoint 1



沢沿いの平坦な道から、木組みの階段が現れる地点。つまり、地形が立ちあがる「へり」が観察のポイントです。

### Checkpoint 2

ハンバーガーに似てる!

巨石があるU字カーブ。カーブの形状と切れ込んだ谷の方向が決め手になります。



### Checkpoint 3

大きな三叉路です。地図上では、手前にも三叉路があるのですが、坂を下ったところに表れた三叉路か、平らな道を進んで表れた三叉路かの違いがポイントです。

実はここが③?

地図上に道がないのが最大のポイント!

### Checkpoint 4

また大きな三叉路が現れました。左に折れる道が地図に記入されていないために、実はここが③?と疑心暗鬼に。その先には峠らしきものも見えますが…

### Checkpoint 5

Aさんはここで頭が真っ白に!

そして沢が現れました。どこを左折したのか、この沢はどこなのか、ここで現在地を完全に見失います。

【詳細は2ページで。】

### Checkpoint 6

ホントなのかな…?

⑥は、③を起点に周回した、三叉路に突き当たるほんの手前です。見覚えある景色なのですが、⑤で現在地を見失ったために、ほとんどの方が今どこにいるのか自信をなくしています。

※地図: このシリーズでは、国土地理院発行の地図を使用しています。(地図出所/国土地理院電子地形図を掲載)  
※磁北線: 真北ではなく、コンパスが指す「北」

〈次ページにつづく〉

〈前ページより〉

## Checkpoint⑤のトリック

皆さん、③までは概ね正しいルートを把握されていました。ところが、地図上の道を歩いていると思いついたため、記入されていない道を通ると、今どこにいるのかがわからなくなってしまうという、典型的な遭難例です。



例えばAさんのケースでは、④で左に下る道が地図に記載されていないため、沢と出合った⑤の位置を⑤+、次に⑤++、さらに⑤+++と訂正を繰り返し、どこにいるのがまったくわからなくなってしまう様子です。

そして一旦現在地を見失ったあとは、周回した⑥の位置も、どこにいるのか最後まで疑心暗鬼でした。



この場合、④の三叉路では、そこだけではなく安全な範囲で前後の様子などを確認すれば、すぐ先に峠があったり、左に切れ落ちた谷があったりと、地図に道は記入されていなくても現在地となるヒントがいくつか見えてきます。また、もう一度③まで引き返してみるのも有効ですね。

さて、整備されたハイキング道でもひとたび現在地を見失うと、どこを歩いているかまったくわからなくなります。

万一、今どこにいるかが少しでも不安になったら、明確なルートまで引き返しましょう。ただ確実に引き返せるためにも、歩いてきた道の辻や、特徴を捉えて地図にマーキングしておくことをお忘れなく。焦って復路で道迷い？なんていう遭難が多いのも現実です。つまりは、やはり「ナビゲーション力」を磨くに限るのです！



※地形図・地図での登山道の記入状態と実際の道との関係は次のようになっています。今回行ったのは、Aパターン例です。

- A. 地図に登山道未記入+踏み込まれた道が存在する
- B. 地図に登山道未記入+作業道など薄い踏み後が存在する
- C. 地図に登山道記入+災害などにより消滅、荒廃して通行困難
- D. 地図に登山道記入+登山道は解釈により異なる
- E. 地図に登山道記入+登山道の誤情報

青山先生による道迷い実験では、地図上異なる道を、「現在歩いている道」と強く信じ込む人がかなり存在するとされています。しかも、一度信じてしまうと、例えば道標を見てもその思い込みは変えないというそうですが、アナタはいかかですか？

・指導監修／青山千彰(あおやまちあき)

長年、道迷い遭難のメカニズム解明に取り組む。関西大学名誉教授(工学博士)、国際山岳連盟UIAA委員、日山協遭難対策委員会副委員長、日本山岳SAR研究機構会長等

・取材日／平成30年3月3日(土)晴れのち曇り

・取材協力／パーソナルメンバーの皆さん ・取材／佐伯典昭(広報)

このシリーズは、道に迷った時にどう対処するかではなく、「道迷いを予防する」ことを目的としています。少しでもお役に立てるよう内容を深めていきたいと思っておりますので、ご不明な点などございましたら「山岳おおさか係り」宛てにメールでお問い合わせ下さい。yamaosaka@hera.eonet.ne.jp

・地図出所／国土地理院電子地形図を掲載

